

# 鹿児島大学男女共同参画の活動最前線

～一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝く大学をめざして～

総務部人事課男女共同参画企画係

東 洋 充

## 1. はじめに（平成23年度までの歩み）

平成11年に制定された男女共同参画社会基本法にあるように、少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、21世紀の最重要課題の一つである。また研究や教育分野については、国の男女共同参画基本計画や科学技術基本計画において、女性研究者の活躍の促進や雇用の拡大が求められている。

鹿児島大学でも、遅ればせながら、平成21年9月の男女共同参画推進室の設置を皮切りに、平成22年1月「鹿児島大学男女共同参画基本理念及び行動指針」の制定、同年2月には次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」に認定された。また同年4月、男女共同参画担当学長補佐の任命、同年7月、総務部人事課男女共同参

画企画係の新設、男女共同参画推進委員会の設置など全学的な男女共同参画推進体制の基盤が整備された。平成23年3月には、鹿児島大学の男女共同参画を着実に計画的に推進していくためのロードマップとして、「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」を策定した。とりわけ、長期行動計画として、「女性研究者支援・育成に係る制度設計及び関連事業の実施」並びに「女性研究者の在職比率20%以上及び自然科学系での女性研究者採用比率25%を目指す」と掲げた。さらに平成23年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（以下「女性研究者研究活動支援事業」）に申請し、幸いにして採択されたのを機に、現在男女共同参画推進センターの活動は、女性研究者支援や次世代女性研究者育成にウエイトを置きつつ、男女共同参画の推進に取り組んでいる。ここでは、平成24年度の主な活動を紹介する。



図1 次世代認定マーク（愛称：くるみん）

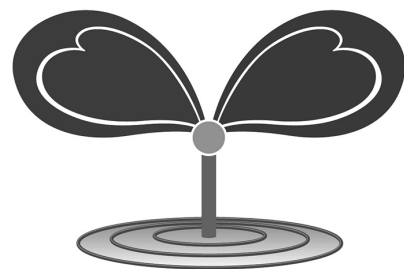


図2 男女共同参画推進センターシンボルマーク  
（平成22年11月制定）

## 2. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の取組

男女共同参画推進センターでは、「女性研究者研究活動支援事業」として、女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、育児・介護等のライフイベントと研究を両立す

るための環境整備を行う取組を平成23年度から平成25年度にかけて推進している。

### (1) ライフイベント期の女性研究者の研究活動支援「研究支援員制度」

ライフイベント期にある女性研究者（配偶者が研究者である男性研究者を含む。）に対する研究活動支援として「研

研究支援員制度」を実施している。これは、平成22年度に実施した「男女共同参画推進に関する意識調査」や「女性研究者支援具体策に係るアンケート調査」を通して、ライフイベント期にある女性研究者への具体的支援策として要望が最も高かったことを踏まえ、平成23年度に創設したものである。平成24年度は、第1期(4月～9月)において10人の研究者(男性研究者1人を含む)、第2期(10月～3月)において9人(男性研究者1人を含む)の研究者が支援を受けた(実績は表1-1、1-2参照)。また、研究支援員の対象を、大学院生に加え、ポスドク等の大学院課程修了者等や農学部獣医学科5・6年次生に拡大したほか、研究支援員に大学院課程修了者等になる場合、適当の勤務時間上限の緩和を行うなどして、本制度の利用促進を図った。

制度利用研究者からは、「予定より早く学会発表ができた」「両立する上で精神的に余裕が出てきた」などの声があり、研究活動の進展にある程度寄与していることがわかる(成果は表1-3参照)。特に、支援を受けている理系の女性教員が(独)科学技術振興機構復興促進プログラムの技術テーマ「水産加工サプライチェーン復興に向けた革新的基盤技術の創出」における新規課題に採択されたことは特筆に値する。

一方、本制度は、支援する研究支援員自身のキャリア形成支援としても位置づけられており、「異なった分野にお

ける研究手法や知識が自分の研究活動に有用である」「ライフイベントと研究活動を両立する研究者の姿勢が今後の人生において役立つ」といった声が聞かれ、研究スキルの向上や男女共同参画に対する意識啓発に大きく寄与している。研究支援員の中には、他大学の助教、本学の特任研究員や医員に採用された者もいる。

## (2) 女性研究者・女子大学院生等のキャリア形成支援

男女共同参画推進センターでは、女性研究者及び女子大学院生等のキャリア形成支援の一環として、「muse(むぜ)カフェ」と称する交流会や、「女性研究者キャリア形成セミナー」を開催している。また、「メンター制度」を平成24年度に創設したほか、「英語論文書き方セミナー」の実施や、女性研究者ロールモデル集の制作など様々な取組を行っている。

### ①「muse カフェ」

平成24年度には、女性研究者間、女性研究者・女子大学院生間、女子大学院生間、女子大学院生・学部生間等の様々なスタイルで合計13回の「muse カフェ」を実施し、参加延べ人数は120人であった。女性研究者・女子大学院生からは、「分野を超えて知り合うことができてよかった」「女性としてキャリア形成していく参考になる話が聞けた」などの感想が聞かれた。(写真1) また、農学部の女性教

表 1-1

○平成24年度第1期 (平成23年度の制度利用研究者を含めた研究者をアルファベット順で表示)

|  |   | 制度利用研究者 (分野・職名) |     | 性別 | 支援<br>時間 | 申請<br>要件 | 研究支援員        | 性別 |
|--|---|-----------------|-----|----|----------|----------|--------------|----|
| B  | ※ | 教育系             | 准教授 | 女  | 220      | 育児       | 博士課程         | 女  |
|  |   |                 |     |    |          |          | 修士課程修了       | 女  |
| C  | ※ | 保健系 (保健)        | 助教  | 女  | 24       | 育児       | 修士課程         | 女  |
| D  | ※ | 理工系             | 准教授 | 女  | 180      | 育児       | 修士課程         | 男  |
| F  | ※ | 保健系 (医)         | 助教  | 女  | 200      | 育児       | 博士課程         | 男  |
| G  | ※ | 保健系 (歯)         | 助教  | 女  | 228      | 育児       | 博士課程         | 男  |
| H  | ※ | 保健系 (歯)         | 助教  | 女  | 234      | 育児       | 博士課程         | 男  |
| I  | ※ | 理工系             | 助教  | 女  | 220      | 育児       | 修士課程         | 女  |
| N  |   | 保健系 (医)         | 助教  | 女  | 168      | 育児       | 博士課程         | 女  |
| O  |   | 保健系 (医)         | 助教  | 男  | 240      | 育児       | ポストドクター (PD) | 女  |
| P  |   | 保健系 (歯)         | 助教  | 女  | 361      | 育児       | PD           | 女  |
| 合計   |   | 10 人            |     |    | 2075     |          | 11 人         |    |
| ※：平成23年度第2期からの継続制度利用研究者<br>I 研究者：4月特任助教から助教として採用 |   |                 |     |    |          |          |              |    |

表 1-2

○平成 24 年度第 2 期（平成 23 年度の制度利用研究者を含めた研究者をアルファベット順で表示）

|                             |   | 制度利用研究者（分野・職名） |     | 性別 | 支 援<br>予定時間 | 申請<br>要件 | 研究支援員                 | 性別     |
|-----------------------------|---|----------------|-----|----|-------------|----------|-----------------------|--------|
| B                           | ※ | 教育系            | 准教授 | 女  | 240         | 育児       | 博士課程<br>修士課程修了        | 男<br>女 |
| D                           | ※ | 理工系            | 准教授 | 女  | 240         | 育児       | 修士課程                  | 女      |
| F                           | ※ | 保健系（医）         | 助教  | 女  | 302         | 育児       | 博士課程（～12月）<br>PD（1月～） | 男<br>女 |
| G                           | ※ | 保健系（歯）         | 助教  | 女  | 216         | 育児       | 博士課程                  | 女      |
| H                           | ※ | 保健系（歯）         | 助教  | 女  | 240         | 育児       | 博士課程<br>博士課程          | 男<br>男 |
| O                           | ※ | 保健系（医）         | 助教  | 男  | 360         | 育児       | PD                    | 女      |
| P                           | ※ | 保健系（歯）         | 助教  | 女  | 600         | 育児       | PD                    | 女      |
| Q                           |   | 人文・社会系         | 准教授 | 女  | 160         | 妊娠       | 修士課程（～1月）             | 男      |
| R                           |   | 理工系            | 准教授 | 女  | 140         | 育児       | 学部学生 6 年次             | 男      |
| 合計                          |   | 9 人            |     |    | 2498        |          | 12 人                  |        |
| ※：平成 24 年度第 1 期からの継続制度利用研究者 |   |                |     |    |             |          |                       |        |

表 1-3

○平成 24 年度成果

|  |   | 制度利用研究者（分野） |            | 性別 | 成果内容等  |
|--|---|-------------|------------|----|--|
| A  | ※ | 人文・社会系      | 准教授        | 女  |  |
| B  | ○ | 教育系         | 准教授        | 女  | 学会発表 1 件 論文投稿 3 件 書籍出版 1 件                     |
| C  | ○ | 保健系（保健）     | 助教         | 女  | 学会発表 1 件                                       |
| D  | ○ | 理工系         | 准教授        | 女  | JST 復興支援プロジェクトに採択<br>学会発表 3 件（国際学会 1） 論文投稿 1 件 |
| E  | ※ | 保健系（歯）      | 助教         | 女  |  |
| F  | ○ | 保健系（医）      | 准教授        | 女  | 学会発表 1 件 論文投稿 1 件                              |
| G  | ○ | 保健系（歯）      | 助教         | 女  | 学会発表 1 件 論文投稿 1 件                              |
| H  | ○ | 保健系（歯）      | 助教         | 女  | 学会発表 1 件                                       |
| I  | ○ | 理学系         | 助教         | 女  |  |
| J  | ※ | 保健系（歯）      | 助教         | 女  |  |
| K  | ※ | 理工系         | JSPS 特別研究員 | 女  | 平成 24 年 6 月から他大学助教として採用                        |
| L  | ※ | 保健系（医）      | 准教授        | 男  |  |
| M  | ※ | 理学系         | 特任講師       | 男  |  |
| N  | ☆ | 保健系（医）      | 助教         | 女  | 学会発表 2 件 論文投稿 5 件                              |
| O  | ☆ | 保健系（医）      | 助教         | 男  | 学会発表 2 件 論文投稿 6 件                              |
| P  | ☆ | 保健系（歯）      | 助教         | 女  | 学会発表 1 件                                       |
| Q  | ☆ | 人文・社会系      | 准教授        | 女  |  |
| R  | ☆ | 理工系         | 准教授        | 女  | 学会発表 1 件                                       |
| ※：平成 23 年度のみ制度利用研究者 ○：平成 23 年度からの継続制度利用研究者 ☆：平成 24 年度新規制度利用研究者 |   |             |            |    |  |

員をロールモデルとして女子大学院生を対象に実施したカフェ（写真 2）では、キャリア継続やキャリアアップへの意識改革の契機となった。さらに、関心のある男性も参加

しての「muse カフェ」もあり、女性研究者支援を含む男女共同参画推進の意識啓発につながったと思われる。



写真1 女性研究者間「muse カフェ」



写真2 農学部女性教員によるロールモデル講話

## ② 女性研究者キャリア形成セミナー

女性研究者キャリア形成セミナーは、ロールモデルとして他大学の女性研究者を講師に迎え、その研究姿勢や研究内容、女性としての生き方を伺うことで、女性研究者や研究者を目指す女子大学院生がキャリアを形成していくために必要な考え方や工夫を学ぶとともに、女子学生の研究者

への進路選択につながる機会とすることを目的としている。平成24年度は、神戸大学特別顧問（当時）の相馬芳枝氏による「女性研究者のキャリア形成とライフデザイン」（写真3）と長崎大学学長特別補佐の大井久美子氏による「男女共同参画社会において－立ちはだかる壁に向かって－」（写真4）の2回のセミナーを実施した。



写真3 相馬芳枝氏によるセミナー



写真4 大井久美子氏によるセミナー

## ③ メンター制度

メンター制度は、一定の職務経験等を有する教員（メンター）が、研究者としてキャリアを形成していくための方法や、ライフイベント期にある女性研究者や女子大学院生（メンティ）が抱える諸問題について、自身の経験、知識やネットワーク等を活かし、分野や専門の枠を超えて助言を行うものである。平成24年度には、自薦・他薦の学内の教員12人に対してメンター委嘱状が交付されたほか、メンター制度の周知を図るために、男女共同参画推進センターホームページへの制度の概要とメンターリストの掲載

や、「メンター制度の案内」（メンター用・メンティ用）リーフレットを作成した。ただ制度の周知が不十分だったこともあり、平成24年度は、実績はなかったが、「muse カフェ」等を通して、若手女性研究者や女子大学院生などのキャリア形成に関する潜在的なニーズがあることは把握しているところであり、制度周知を含め、運用のあり方を見直していくこととしている。

また、メンター制度の整備充実の一環として、メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー～よき相談相手となるために～」を7月に郡元地区（写真5）及び桜ヶ



丘地区（写真6）で開催した。メンター7人を含む46人が参加し、メンターの心構え、傾聴力・質問力などメンタ

リングに必要な資質について、グループワークを交えながら学ぶ機会となった。



写真5 郡元地区での様子



写真6 桜ヶ丘地区での様子

#### ④ スキルアップセミナー「英語論文書き方セミナー」

研究者が英語論文を書くにあたっての基本的かつ重要な技術や、正確な知識と体系的な視点をもってより質の高い英語論文を書くことができるようスキルアップを図ることを目的とし、「英語論文書き方セミナー」を6月に実施した。（写真7）なお、女性研究者や女子大学院生のキャリア形成において必要となるスキルアップを目的としていたが、男性研究者や男子大学院生からの希望が多く、男性にも受講対象を広げた。

セミナーでは、英語論文を書く際の心構えや、スタイル・

フォーマット、構成方法のほか、日本人が犯しやすい癖や誤りについて、クイズなどを交えながらわかりやすく解説された。受講者からは「漠然としていたことが論理的に整理された」「日本語論文を作成する際にも参考になった」「犯しがちなミスを確認できた」などの声が聞かれ、これまでの論文執筆に対する考え方を見直す有意義な機会となった。

なお、セミナー後、授業や出張等で受講できない人が多かったことから、部局等で個別視聴できるようDVD化（写真8）し、好評を得た。



写真7 セミナーの様子



写真8 DVD カバー

#### ⑤ 女性研究者ロールモデル集

女性研究者のこれまでのキャリア及び様々な体験等の紹介を通じて、若手の女性研究者及び女子大学院生等のキャ

リア形成支援等の一助となることを目的として、「輝く女性研究者たちー鹿児島大学ロールモデル集ー」を作成し、学内、自治体・関係機関等に配布した。ロールモデル集には、

学内の部局等から推薦のあった女性研究者14人と、卒業生で学外の研究機関等の女性研究者2人の計16人の研究内容、研究者になるまでの過程、日常生活やこれから女性

研究者を目指そうとする方々へのメッセージ等が紹介されている。(写真9, 10)



写真9 表紙



写真10 研究者紹介ページ

### 3. 女性研究者支援体制の整備充実

平成24年度から、全学の経営管理体制の見直しに伴い、学長の下で全学の男女共同参画推進に係る企画立案及び実施をつかさどる男女共同参画推進室とは別に取組を実施する運営組織として男女共同参画推進センターが設置された。また、その下に女性研究者支援業務に係る企画立案・実施の中核組織として、12人の教職員で構成する「女性研究者支援事業本部」を設置した。さらに、学長補佐である男女共同参画推進センター長の下、女性研究者支援業務の中核的役割を担う「コーディネータ」(特任専門員)を新たに配置し、総務部人事課男女共同参画企画係と連携協力しながら、主に女性研究者支援のほか、男女共同参画の推進女性研究者の裾野拡大に向けた取組等を図っていく体制が整備された。

なお、平成24年度末には、男女共同参画推進センターの運営体制の強化とともに、男女共同参画推進事業の企画立案・実施をより機動的に行っていくために、男女共同参画推進センターと部局との連携協力の緊密化により、全学的な女性研究者支援をはじめとする男女共同参画推進体制のさらなる整備充実に向けた検討を行った。その結果、平成25年度から、女性研究者支援事業本部を発展的に解消し、男女共同参画推進センターに「広報・啓発推進部会」「ワーク・ライフ・バランス支援部会」「女性研究者支援部会」

の3部会を置き、その部会に配置する部局の教員が各取組の企画立案・実施に携わることで、多様な女性研究者等のニーズに沿った支援や事業の実施に向けた体制を整備することとなった。(図3) これらの体制の見直しは、「女性研究者研究活動支援事業」終了後の持続的な女性研究者支援を図っていく上でも重要である。また、平成24年度に部局等が策定した「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」(次項4-1)を参照)について、男女共同参画推進センターと部局双方が進捗管理を行いつつ、着実な女性研究者及び上位職女性研究者の増並びに次世代女性研究者の育成や、就業環境の整備充実、男女共同参画に係る意識啓発等を計画的に推進していくことを目指している。

### 4. 部局等における男女共同参画推進に係る目標・行動計画を策定

#### (1) 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」

全学的な男女共同参画の着実な推進を図るため、全部局・学内共同教育研究施設等が平成24年9月に「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」(「部局等方針」)を策定した。各部局等は、その中で①男女共同参画推進体制の整備、②女性研究者増に向けた具体策(在職・採用比率



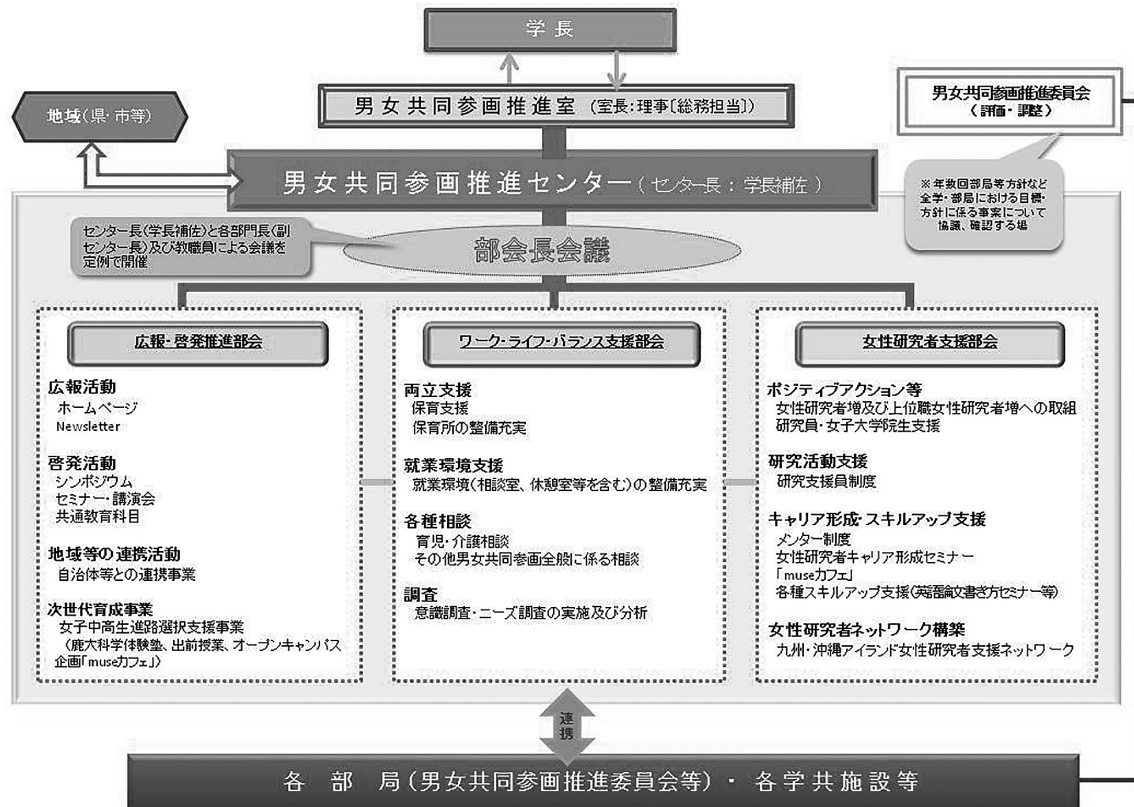


図3 男女共同参画推進体制（平成25年4月～）

増に係る目標又は取組、③女性研究者支援及び次世代女性研究者の育成等、④就業環境等の整備、⑤意識啓発の推進、⑥その他の取組について短期及び中長期的な目標・計画を掲げた。

男女共同参画推進体制の整備については、平成23年度に男女共同参画推進委員会を設置した2つの部局に続き、平成24年度において、9部局等で同委員会又はワーキング・グループの設置、5部局では既存の関係会議での対応・協議の実施を掲げた。

女性研究者の在職・採用比率の目標については、複数の部局で現状に応じた短期又は中長期的スパンでの目標あるいは努力目標が設定された。女性研究者を増やす具体的な取組についても、複数の部局でポジティブ・アクションの導入が盛り込まれ、理工学研究科（工学系）では女性限定公募の実施（25年4月から女性助教1名採用）、9部局等でプラス・ファクター方式（能力が同等であれば女性研究者を優先採用）の導入（平成24年度は4部局の教員公募で実施）が挙げられた。さらに、農学部及び理工学研究科（工学系）では、女性研究者を採用した場合の当該分野（講座）への研究費等のインセンティブの付与が今後の方針として

示された（平成24年度では理工学研究科（工学系）で実施）。

また、女性研究者支援の一環として、若手女性研究者への研究環境整備に係るスタートアップ支援や、部局長と女性研究者との懇談会の開催等が盛り込まれたほか、次世代女性研究者の育成については、テニユア・トラック制度の整備、女子大学院生への国際学会参加旅費の助成等の具体的な支援策の実施及びその検討、ロールモデル情報の積極的提供や女子大学院生と女性研究者との懇談会の開催、女子中高生の理工系進路選択支援等の取組が挙げられた。

## (2) 「男女共同参画キャラバン」

鹿児島大学男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画を全学的に推進していくため、各部局における男女共同参画に係る現状や課題、構成員のニーズ等について把握するとともに、女性研究者の積極的な採用及び登用並びに女性研究者の裾野拡大等について意見交換するため、男女共同参画推進室長（理事〔総務担当〕）と男女共同参画推進センター長（男女共同参画担当学長補佐）による各部局への「男女共同参画キャラバン」を平成24年度も全部局において実施した。

第1回目(平成24年5月～6月)では、「部局等方針」の策定に向けた意見交換や女性研究者増に係る部局の実状と課題の把握に努めた。さらに第2回目(平成25年2月～3月)では、「部局等方針」に係る進捗状況及び平成25年度計画の確認や、その進捗管理に関する協力依頼のほか、平成25年度からの男女共同参画推進センターの体制整備を踏まえた各部局における男女共同参画推進体制との有機的連携のあり方及び女性研究者増に向けた具体策等について意見交換を行った。(写真11)

また、教員公募状況では、すべての部局において、依然として女性研究者の応募が非常に少ない状況が確認された。これに対し、男女共同参画推進室からは、平成24年度に作成した男女共同参画推進センターリーフレットの活用等による女性研究者支援状況の可視化や、学会等への情報発信など女性研究者の応募増に向けた取組のさらなる推進のほか、女子大学院生等へのロールモデル情報の積極的な提供機会を設けるなどして、次世代の育成を図ることについて協力を求めるとともに、男女共同参画推進センターと連携した取組の実施等について提案を行った。



写真11 理工学研究科(工学系)での様子

## 5. 就業環境の整備、ワーク・ライフ・バランス支援

保育支援では、教職員が就労のためにベビーシッターによる在宅保育を利用する際に、料金の一部を助成する(財)こども未来財団ベビーシッター育児支援事業制度を活用して、「ベビーシッター費用割引券発行事業」を平成23年度から実施している。

また、乳幼児や学童を持つ教職員(非常勤職員を含む)が大学入試センター試験時に試験監督等に従事する際の保

育支援として、郡元キャンパス近くの保育所と桜ヶ丘キャンパスのさくらっ子保育園での一時保育支援を実施し、平成24年度は教職員3人(子供4人)が利用した。(写真12) そのほか、平成23年度に実施した「保育所整備充実等に関するニーズ調査」結果等を踏まえ、男女共同参画推進センターにおいて、郡元地区に設置する場合に想定される保育所の運営形態、サービス内容及び予算等について、他大学の保育所やさくらっ子保育園を参考に検討し、「郡元地区における保育所設置提案書」を作成し、学長に提出した。



写真12 近隣保育所での様子

## 6. 学生の男女共同参画意識醸成

男女共同参画推進センターでは、全学部学生対象の共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」を平成22年度から開講している。学内の教員による男女共同参画に関する基本的知識に係る講義(写真13)のほか、子育てや介護を経験又はその最中にある教職員によるロールモデル講話や関係教職員を交えたグループディスカッション(写真14)を通じて、男女共同参画のあり方について理解を深めさせるとともに、男女共同参画社会実現への積極的な関与を促す契機とすることを目的としている。

また、本科目開講時期に合わせ、附属図書館が、(独)国立女性教育会館情報センターの「図書貸出パッケージサービス」を利用した男女共同参画関連図書200冊の貸出サービスを実施し、受講学生の参考図書にもなった。さらに同時に開催した男女共同参画推進センターの活動を紹介したポスター展も含め、学生をはじめとする来館者に向けた男女共同参画に対する意識啓発の機会となった。





写真 13 講義の様子



写真 14 グループディスカッションの様子

## 7. “リケジョ”を増やす取組

### (1) 「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子（リケジョ）ってカッコイイ!～」

男女共同参画推進センターは理系5学部協力の下、女子中高生の理系進路選択支援事業として、「女子中高生の

ための鹿大科学体験塾」を平成24年度初めて実施した。女子中高生から「今回の体験を通じてさらに科学への興味が深まった」「今まで経験したことのない実験に挑戦できて刺激になった」といった声が聞かれるなど、科学への関心を深める契機となった。（写真15～24）

平成24年度の実施概要は、表2のとおりである。

表 2

| 学部名    | コース名   | 写真 No | 参加者数 | 中学生 | 高校生 |
|--------|--|-------|------|-----|-----|
| 理 学 部  | 酵素の働きを見てみよう！～体の中は「化学工場」主役は酵素～                    | 15    | 7    | 4   | 3   |
|        | 光で探るミクロの世界～薩摩切子にひそむ金のナノ粒子を作ろう～                   | 16    | 13   | 11  | 2   |
| 工 学 部  | 女性建築家に聞く建築の魅力&身近な生活空間をデザインしよう                    | 17    | 9    | 3   | 6   |
|        | 目の不思議を体験してみよう～だまし絵からファッションまで～                    | 18    | 11   | 8   | 3   |
| 農 学 部  | 農地にいる小さな生き物たち～微生物や小動物の顕微鏡観察～                     | 19    | 9    | 1   | 8   |
|        | 生命誕生の神秘～家畜の卵子や精子の観察と体外受精の実験～                     | 20    | 10   | 7   | 3   |
| 水産学部   | 刺身の鮮度を色で科学する～タンパク質の抽出と分析～                        | 21    | 3    | 2   | 1   |
|        | 海の中のマイクロワールドを体験しよう！<br>～顕微鏡によるプランクトンの観察と海洋調査の紹介～ | 22    | 5    | 4   | 1   |
| 共同獣医学部 | 産業動物ってどんな動物？                                     | 23    | 13   | 9   | 4   |
|        | 潜入！モグラの地中生活                                      | 24    | 5    | 0   | 5   |
| 合 計    |  |       | 85   | 49  | 36  |



写真 15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



## (2) オープンキャンパス企画“ガールズ☆Talk”

オープンキャンパス企画として、女子大学院生がロールモデルとなり女子高校生の進路選択支援を行う“ガールズ☆Talk”を平成22年度から実施している。平成24年度は18人の女子大学院生が自ら作成したポスターにより女子高校生に対して研究活動や学生生活を紹介(写真25)したり、進路相談(写真26)に応じたりした。女子高校生からは「文



写真25 ポスターによる研究紹介の様子

系志望だが理系学部にも興味を持てた」「進路選択の迷いが少し晴れた」といった感想が聞かれたほか、女子大学院生からも「自分の研究や学生生活を客観視することができた」といった声があった。また、女子高校生の案内・受付等のイベント運営において、ボランティアの学部生の力動的な協力があつた。



写真26 学生生活等に関する意見交換の様子

## 3) 出前授業

男女共同参画推進センターは、高大連携事業の一環である平成24年度出前授業に「自分のライフプランニング」

と「研究者への道」の2科目を提供した。実績としては、水産学部の久賀みず保助教が「研究者への道～食への情熱～」と題して志学館高校1年118人に対して、講演を行った。

# 8. 他大学及び自治体との連携

## (1) 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)

Q-weaとは、九州・沖縄地域で文部科学省科学技術人材育成費「女性研究者研究活動支援事業」をはじめとした女性研究者支援事業に携わる大学等のゆるやかなネットワークで、九州・沖縄地区の8国立大学と2私立大学で構成(平成24年度)されている。主な活動として、関係理事・副学長がパネリストとなる年1回のシンポジウム(平成24年度は大分大学が当番:写真27)と担当者による学習会等が開催されている。女性研究者支援に係るさまざまな情報交換はもとより、これらの連携を通じての相乗効果・波及効果を目指している。



写真27 パネルディスカッションの様子

## (2) 自治体との連携

平成24年度には、鹿児島市男女共同参画センターと連携して、鹿児島市の男女共同参画のイベント「サンエールフェスタ」（写真28）においてワークショップ『「museカフェ」～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ!～』を実施したほか、鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」（平成25



写真28 「サンエールフェスタ」の様子

年3月）の特集に『研究者として活躍する女性たち』を企画していただき、女性教員や男女共同参画推進センター長のインタビュー記事（写真29）のほか、本学の各種取組等や女性研究者の支援の意義について、鹿児島市地域住民へ広く情報発信できた。



写真29 「すてっぷ」誌面

## 9. 広報活動

ホームページ（写真30）や、年2回発行のNewsletter（写真31）により、男女共同参画推進に係る取組や女性研究者等のメッセージを紹介している。また、平成24年度には男女共同参画推進センターの活動を紹介したリーフレット

を作成し、全教職員へ配布したほか、教員公募時における女性研究者支援情報の提供に活用することで女性研究者の応募促進を図った。

\* 男女共同参画推進男女共同参画推進センターホームページ

URL：http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/



写真30 HPトップ画像



写真31 Newsletter



## 10. 終わりに（課題と今後の展望）

鹿児島大学の男女共同参画推進の取組が組織として動き出して4年経過した。その間、男女共同参画推進のための組織づくりや、男女共同参画基本理念、全学及び各部局等における男女共同参画推進に係る目標・行動計画が策定され、ようやく全学的に推進していくための基盤が整ってきたところである。特に、女性研究者支援の面では、「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたことにより、女性研究者の採用・登用の促進や次世代女性研究者の裾野拡大に向けた取組をある程度推進してきたことは、今後女性研究者支援を推進していく上で有意義であるといえる。

しかしながら、短期的には、平成26年度の文部科学省による事後評価に向けて、「女性研究者研究活動支援事業」を総括するとともに、事業計画に掲げた女性研究者在職比率等の数値目標の達成に向けた努力をしなければならない。さらに、中長期的には、男女ともに個性や能力を発揮でき

るためのよりよい就業・就学環境の整備充実、ワーク・ライフ・バランス支援の充実、女性研究者の採用・登用の促進や次世代女性研究者の育成等の具体的な取組を持続的に展開していくことが大きな課題である。これらを達成していくためには、中長期的な目標・行動計画に基づいて、限られた予算で最大限効果が上げられるように、教職員のニーズ等を踏まえつつ推進していくことが求められる。さらに重要なのは教職員全員の男女共同参画に対する意識改革であろう。

鹿児島大学の構成員が、男女共同参画基本理念のモットーにあるように「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝く」ために、学長のリーダーシップの下、全学一体となって男女共同参画に関する多様な取組をこれまで以上に積極的に推進していくことがますます重要になると考えている。